

IPPS 第20回 岐阜大会 記念プレツアー 乗鞍岳 高山植物探訪と高冷地野菜・高山市内視察ツアーのご案内

IPPS岐阜大会実行委員会 有限会社セントラルローズ 大西 隆

今年はIPPS-Jの記念すべき第20回大会です。そこで特別企画として、下記のような「ツアー」を計画いたしました。たくさんの皆様のご参加をお待ちしています。

日程 2013年7月27日(土)-28日(日)

会費 30,000円(名古屋からのすべての料金を含みます)

内容

- 乗鞍岳で高山植物を観察
- 岐阜県飛騨地区の農産物 産地視察(トマト・ホレンソウ)
- フルージック(温泉熱利用のハウスでドラゴンフルーツを栽培)
- 高山市内見学、平湯温泉にて宿泊、懇親会

行程表 7/27(土) 9:00 名古屋駅「太閤通口」集合

9:15 出発 → 名古屋高速-東海北陸道 経由 → 高山西IC

11:30-12:20 道の駅ななもり清見(昼食)

12:40-13:20 高山市江名子地区 高冷地野菜、トマト農場視察

13:30-14:30 高山市内を散策

15:30-16:10 フルージック視察、ドラゴンフルーツの栽培

16:30 平湯温泉「穂高荘 山がの湯」到着



フルージックのドラゴンフルーツ

7/28(日) 8:30 出発 → 乗鞍スカイライン

9:30 乗鞍岳「豊平」駐車場到着、
高山植物の観察・お花畑散策

11:30 乗鞍岳 出発

12:30 丹生川村「赤かぶの里」にて昼食

13:40 板倉ラーメン見学

17:30 名古屋駅到着、解散



ヨマクサ



乗鞍岳「豊平」のお花畑

参加希望者はFAXかメールで、申込書の内容を下記まで送付してください。申込締め切りは7月20日です。多数の参加をお待ちしています。なお参加費用は7月20日までに振込か下記まで送金してください。

〒501-0418 岐阜県本巣市七五三1065 大西 隆

TEL:058-324-7203 FAX:058-324-6277 Eメール:info@centralrose.co.jp

振込先:岐阜信用金庫 もとす支店 【店番号】069 【口座番号】0389694

【口座名義】IPPS-J 岐阜大会実行委員会 実行委員長 大西 隆

目次	私の花苗生産(佐藤 伸吾)..... 2	OCTOBER 2012 IPPS JAPAN - NEW ZEALAND EXCHANGE(Juliette Curry) ... 4
	エアープランツ(柴崎 裕也)..... 3	赤塚シャクナゲガーデン(藤森 忠雄)..... 6

私の花苗生産

有限会社花街道 佐藤 伸吾

I P P S - J の活動にも長いことご無沙汰をして、失礼しております。私ども花街道の現況報告のつもりで書かせていただきます。

NEXCOの高速道路施設用花作りから撤退して3年余りを経過しました。今は、花壇苗を主体とした花き生産をしています。滋賀県湖南市の、のんびりとした里山で休耕田を借りて、現在は約1,000㎡程のビニールハウスで十数万本の花を生産しています。高速道路用の花は、品質はさておいて、数量確保を第一としてきました。そのような姿勢での花作りではなく“良い花を作りたい”という夢のような思いで始めた花き生産業への転向でした。

高速道路会社との契約では、数量・単価ともほぼ契約に基づいてのものでした。しかし現在、厳しい現実に向き合っています。滋賀県内の園芸店卸が約6割、京都の市場卸が3割、直販が1割といった割合です。

一番問題になっているのが、約3割を占める市場での価格です。園芸店は、良品を安定して確保したい為、それなりの価格で対応してお付き合いをしてくれています。しかし、市場での



価格には驚いています。買参人次第であることは分かりますが、生産者を守るという努力が感じられません。多くの生産者が市場離れを目指しているのが解ってきました。これまで、NEXCOというぬるま湯にどっぷりと漬かって、世間を知らなかったことを今になって思い知らされています。

とはいっても始めたからには、何かしら、手を打っていかなくてはなりません。現在取り組んでいるのは、

- ①ポットのサイズ・形状・色による差別化。
- ②高性種を利用した生産。
- ③宿根草の生産。
- ④品質の向上。

⑤ロスの減少。

⑥販売先の確保。

など、まだまだ未熟で、手探りの多い状態。今年は、設備の増設も予定しており、生産計画、販売先など課題を抱えています。

皆様の活動に、参加できるよう努力してまいります。



エアープランツ

南紀グリーンハウス 柴崎 裕也

生育環境や管理方法も個性的なエアープランツという植物があります。エアープランツとは、熱帯アメリカに広く分布するパイナップル科の植物の一族で、非常に形態の変異に富んだ植物群です。

今日までに500種類以上、変種を加えれば600種類以上が報告されています。その多くは木の枝や岩に付着して育つ着生植物で、生育に土を必要としません。その上、乾燥に対する抵抗力が究めて強く、空気だけで育つという意味合いで「エアープランツ」という名で呼ばれるようになりました。

置き場所

直射日光のあたらない、明るい場所が良いでしょう。室内ではレースのカーテン越しが適していますが、リビングなど窓のある明るい室内なら問題なく育てられます。生育適温は15℃～25℃。急激に温度が上がるような温度差の激しい場所は避けること。またエアコンやヒーターの噴出口に近い場所も、乾燥しすぎるので好みません。冬場は寒さにあたらないようにし、出窓など夜間に急激に温度が下がるような場合は、室内への移動が必要になります。

エアープランツの館

パイナップル科の着生種であるエアープランツ(俗称)チランジア属(原産地中南米)を常時30種類以上栽培しています。

【住所】三重県南牟婁郡御浜町上野104

【館長名】芝崎裕也

【電話】0597-94-1090

【開館】毎日(要予約)

【交通】JR阿田和駅から車15分

【ホームページ】<http://www.za.ztv.ne.jp/sibayan/>



アレンジの一例



水やり

日差しの強い高温下では体内に水分を吸収しません。特に日中は蒸散しないよう気孔を閉じているため、夜に水やりをします。霧吹きなどを使って、週に2回～3回が目安となります。



OCTOBER 2012 IPPS JAPAN - NEW ZEALAND EXCHANGE

Juliette Curry



Golden Temple at sunset, Kyoto

My trip to Japan began by car from Taupo to Auckland, a flight to Narita airport and then a very quick transfer to a domestic flight from Narita to Osaka. I was met there by Akimi and Naoki who had both travelled some distance to collect me.

I then spent two nights at Shin Osaka with Akimi doing a bit of sightseeing around Kyoto and Osaka.

A highlight of those two days was seeing the Golden Temple just as the sun was setting. Absolutely beautiful. We also visited the Kyoto Botanical Gardens.

We then caught the shinkansen to Toyohashi and I spent another two nights there. Akimi showed me around her business, Verde, and we also visited some other members of the IPPS and a large garden centre.

On day 5, after some more sightseeing and

visiting members, Akimi drove me to the home of the Uchida family in Suzuka. I stayed with them and worked in the nursery for the next four days. I mainly worked with the strawberry crops but also helped to pack some figs and take them to the farmers market. They had suffered some damage in the nursery from a recent typhoon. Uchida san also took me for a drive around the local area to look at nurseries. There were many small family run businesses growing everything from large grade bonsai style landscape trees to vegetable crops. It seemed that the market for the large Japanese style garden trees was dwindling as modern families did not have the time to maintain traditional style gardens. Another observation was the lack of lawn in suburban areas, it seems food crops take priority over everything and every possible area of soil is utilised for various food or green tea crops.

I enjoyed my stay with the Uchida family very much, they were wonderfully warm hosts, and Miuki is a great cook!! I think I



A wonderful host, Akemi



Me visiting tissue culture lab at Verde



Largest Garden Centre in Toyohashi



Me packing figs for market at the Uchida family nursery



Kendo class with Mr Uchida



Last night dinner with the Uchida family



Plants ready for sale at auction



Bare root cabbage tree at auction



Root wrapping for auction



Green Tea crop getting a trim



Ishi Katsuaki, international tour host

Sterile growing area at Chiba University



Future food production



Nito Nobumasa, holding large nashi, international tour host



Ian Duncalf photo bombing at Chiba University!!

gained a few pounds during my stay with them.

On day 9 we travelled to Nagoya to meet with Ackimi, who again had travelled a long distance to collect me. Ackimi and I then travelled on the shinkansen to Narita where I was to meet up with the international tour group. On the journey we passed through a large citrus and green tea growing area.

On my exchange I was lucky enough to be included in the international tour party and to meet other members from around the world.

I then spent the next 10 days with the international tour visiting nurseries and sightseeing with a whole bus load of like minded plant enthusiasts from across the globe. What a great way to see a country and learn something everyday. I was immersed in a wealth of knowledge spanning many years in the industry. A real treat for a comparatively new member.

Highlights of the tour included a visit to the plant factory at Chiba University, a fascinating insight into the future of global food production. Also a glimpse of Mount Fuji before the cloud rolled in, a 360 degree view of Tokyo from 250 metres in the air and Keske's great barbeque.

Then off to the conference in Hamamatsu where I was again the lucky one. I got to experience a real traditional Japanese tea

ceremony and see how green tea was made at the tea factory at the college....

I gave a talk at the conference on New Zealand native plants. I also got to catch up with other exchange members from Japan who I had met in New Zealand so that was great.

I think the exchange programme is a very valuable way to connect members of an international society like the IPPS and to forge lifelong associations and friendships with other members.

The conference ended with some karaoke... I hope there is not a U-tube video of me out there!!!

In summary I would like to especially thank Ackimi, Nioki and the Uchida family for looking after me so well and the Japan and New Zealand IPPS for the awesome opportunity. My general impression and observations of Japan are one of immense warmth and hospitality, cleanliness, organisation and a beautiful culture that is being strongly influenced, good or bad, by Western society. The history and depth of culture is mind boggling to a girl from New Zealand and I was both impressed and awed by it.

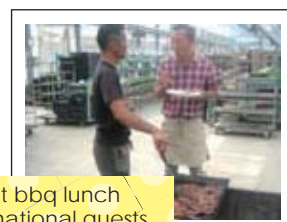
Thank you again and long may the exchange programme continue.



A glimpse of Mount Fuji



View of Tokyo from 250m in the air!



Great bbq lunch for international guests, Mr Uchida cooking



Green Tea Ceremony

赤塚シャクナゲガーデン

株式会社赤塚植物園 藤森 忠雄

日本に自生するシャクナゲ（石楠花）は深山幽谷で花を咲かせ、その気品にあふれた高貴な美しさは多くの人々を魅了してきました。しかしながら、暑さに弱く山採りして育ててもすぐ枯れるので、「シャクにさわって投げ（ナゲ）捨てるからシャクナゲだ」とジョークになるほど栽培の難しい植物です。日本シャクナゲ（ホンシャクナゲなど）は一部の限られた趣味家やマニアだけが育てることのできる特殊な花木でした。

ところが近年、欧米で交配されたカラフルで豪華な花房のいわゆる「西洋シャクナゲ」が販売され、比較的丈夫で育てやすいため普及してきました。このシャクナゲの導入と普及に関わってきたのが赤塚植物園です。

きっかけは米国西海岸のワシントン州やオレゴン州の公園や庭園に咲き誇る、見事なシャクナゲに接したことでした。現地の公園や家庭に咲くシャクナゲは色とりどりで豪華絢爛、まさに「花木の女王」そのものでした。赤塚植物園では何とかシャクナゲを日本中に普及したいと考え、1972年から4年間、ワシントン州、オレゴン州の生産者から挿し木苗を約40万本輸入しました。この挿し木苗を自社農場で鉢物として育てると同時に、三重県内にシャクナゲの大産地を

つくろうと多くの植木生産者に呼びかけました。

ところが米国から



ヤクシマ



ジンマリ



ウエディングブーケ

輸入したシャクナゲは、世界中の原種を親にして夏の涼しい欧州や米国北部の環境を想定して作出されたので、暑さの厳しい日本の気候に合わない品種が多かったのです。もっと大きな課題は、いかにすればたくさん増やすことができるのかという増殖方法でした。このままでは日本でのシャクナゲ栽培は終わってしまいます。存続させるためにいくつかの問題点が見えてきました。

- ①日本の気候で育つ丈夫な品種の作出
- ②花付きの悪い品種に着蕾させる技術の開発
- ③効率の悪い挿し木増殖に替わる新たな増殖技術の開発
- ④誰もが感動するようなシャクナゲ開花見本園の造成

一つめの課題、丈夫な品種を作出する目的で、赤塚植物園では台湾原産の「アカボシシャクナゲ」を親にして交配育種を始めました。アカボシシャクナゲは暑さに強く、開花時期も早い有望な品種です。極めて丈夫なので、根の弱いシャクナゲの接ぎ木台木としても使われています。ただ、淡いピンクの花は観賞価値が低く、シャクナゲの持つ気品や豪華さはありません。アカボシシャクナゲからは丈夫さを、他の親からはカラフルさや豪華さを引き継ぐシャクナゲを求めて交配を続けました。

その結果、数多くの優良個体の作出に成功し、農水省の種苗登録制度に品種登録することもできました。日本の気候を想定した赤塚オリジナル品種は丈夫で、耐暑性に優れ、育てやすく、今までのシャクナゲのイメージを完全に覆すことができました。

二つめの課題、花付きを良くする着蕾技術は

科学の進歩によって突然もたらされました。植物の矮化剤として開発されたウニコナゾール（商品名スミセブン）やパクロブトラゾール（商品名ボンザイ、バウンティ）が、節間の伸長抑制効果と共にシャクナゲに対して特異的に着蕾数を増加させる効果のあることが分かったのです。これまで花の咲きにくかった品種でも着蕾数増加の効果が顕著で、シャクナゲが鉢物として栽培できる技術の基になりました。今や日本全国でこの矮化剤を利用したシャクナゲ栽培が行われています。



三つ目は増殖技術の開発です。挿し木増殖でたくさん増やすには膨大な数の親木が必要です。優良品種は商品として売れるものを、親木に転用しなければなりません。まして、新しく育種してできた一本しかない個体を増やすには長い年月が必要で、時代の変化に対応できません。その頃、米国でバイオ技術（植物組織培養）を利用したシャクナゲの増殖が始まっているとの情報を得ました。以前、大量の挿し木苗を買い付けたワシントン州のシャクナゲ生産者が、地元の研究機関の協力を得て成功したとのことでした。

赤塚植物園は1967年に、日本で初めてバイオ技術を利用して洋ランの大量生産に成功した歴史があります。さっそく組織培養の研究に取りかかり、1986年にはシャクナゲの大量増殖技術の開発に成功しました。その大量増殖法とは開花前の花蕾から小花を取り出し、サイトカイニンやオーキシンなど植物ホルモンの入った寒天培地で培養して、多芽体を形成させます。この多芽体を新たな増殖培地を使って、分割を繰り返せ

ば大量増殖が可能となります。フラスコ内で目的の数量に達したら、ホルモンフリーの培地に植え替えます。その後、発根する前にフラスコから出し128穴のプラグトレーに植え付け、ビニールトンネル内でミスト灌水して発根させます。発根前に馴化を始めることで、作業効率が飛躍的に向上しました。発根してしまうと、根に絡まった寒天を取る労力やカビが生える可能性があります。発根前だと小苗をトレーにピンセットで挿すだけですから簡単です。馴化を始めて3～4か月後には3.5号鉢に鉢上げすることによって、均一な大量の苗ができました。

最後の課題は、シャクナゲ開花見本園づくりです。シャクナゲには丈夫で枯れない品種が数多くあることを証明しないと普及しません。多くの園芸愛好家は、シャクナゲは弱くてすぐ枯れる、よほどのマニアでない限り育てられないという先入観を持っています。それを打ち破る最も良い方法は、シャクナゲが元気に大きく育ち、見事な花を咲かせている現場を見せることです。シャクナゲの真の魅力に接したら、愛好家が増え育てる人がもっと増えるはずです。赤塚植物園が米国の西海岸で見たシャクナゲの魅力に取りつかれたように…。

そんな構想を描いていたところ、2000年に近くの農地を借りることができました。早速、自社



の農場で栽培していた赤塚オリジナル品種を中心に、100品種以上のシャクナゲを植え付けました。将来の見本農場を思い描きながら、10年以上に渡って栽培管理を続けたのです。

2013年4月12日から5月12日まで、この栽培見本農場は「赤塚シャクナゲガーデン」として無料で一般公開されました。この110品種約2,000本のシャクナゲをまず近隣の皆さまに見ていただきたかったのです。同時にこの場所で、第37回三重県しゃくなげ展示品評会の入賞品の展示販売も行いました。

特別に宣伝したわけでもないのに連日多くの人々が来場されました。いくつかの新聞社やテレビ局からは取材があり、ローカル記事として記



第37回三重県シャクナゲ展示品評会



赤塚シャクナゲガーデン

載され、放映もされました。なかでもNHKによる放映の翌日は平日にもかかわらず、広い駐車場がいっぱいになりました。来場された人々は大きく育ったシャクナゲに感動され、咲いていたのと同じ品種を即売場で求められていました。

赤塚シャクナゲガーデンは栽培見本農場として初めて公開されましたが、ご来場いただいた皆様から大変好評をいただきました。赤塚植物園が普及に全力で取り組んでいるシャクナゲを通じて、花と緑の社会貢献となったことに満足しています。

編集後記

三重県内には種苗や園芸会社で作る『三重県種苗園芸協会』という団体があります。この団体が主催して「美し国三重『寄せ植え』コンテスト」というコンテストを毎年開催しています。今年は第6回目の開催となり、県内への知名度も上がってきました。一般の園芸愛好家に働きかけて、各種の園芸植物を寄せ植えして、その素晴らしさを競うコンテストです。

このコンテストには4部門あります。コンテナ、ハンギング、フレーム、それにマスター&プロ部門です。作品は約250点前後出展されますので、私は三重県知事賞を初めとして沢山の特別賞を確保するために努力をします。今年は83点の特別賞を頂きました。コンテストの一般公開は6月上旬の、金・土・日の3日間です。私達主催者にとっては、こ

の期間が晴天であることが大きな願いです。今年は幸いにも3日間共に天気に恵まれ、沢山の見学者があり感動していただきました。特に今年は伊勢神宮の遷宮が開催されるために参拝客が増え、このコンテストがちょうど伊勢神宮の外宮前での開催のために、参拝客までも見学していただきました。園芸教室も大盛況で希望者が多く、一部の方にはお断りをせざるを得ませんでした。園芸植物も沢山販売できましたので、大成功でした。

兎に角、今年もこのコンテストが無事に、成功裏に終了したことに安堵している昨今です。

岐阜の会員の皆さんが特別企画(1ページ参照)をしてくれました。皆さん是非参加しましょう。植物の好きな人には大変に良い機会です。 ニュースレター担当：藤森忠雄



三重県知事賞受賞作品



展示の様子



園芸教室の様子